

2025 年 7 月 8 日

丹青社が参画する、空港を主要テーマとする共創・研究開発拠点 「terminal.0 HANEDA」にてサーキュラーエコノミーに関する実証実験を開始 ～空間づくりでの活用を視野にサステナブル素材の実用性を検証～

商業施設・文化施設などの空間づくりをおこなう株式会社丹青社（本社：東京都港区、代表取締役社長：小林統）は、日本空港ビルデング株式会社（本社：東京都大田区、代表取締役社長：田中一仁）が運営する、羽田空港の課題解決に取り組む研究開発拠点「terminal.0 HANEDA」（以下、terminal.0）において、大建工業株式会社（本社：大阪市北区、代表取締役社長：億田正則）と共同で、サーキュラーエコノミー（循環型経済）に関する実証実験を 2025 年 7 月 1 日より開始いたしましたので、お知らせいたします。



「terminal.0 HANEDA」内トイレブースを活用した実証実験

近年、あらゆる施設において資源を循環させ、環境負荷を低減する取り組みが加速しています。特に、再生可能な素材や木材の活用を通じた空間づくりは、資源の有効活用を象徴する動きとして顕著になっており、丹青社も、空間づくりから出来るサステナブルな取り組みを模索しています。

今回の実証実験では、大建工業株式会社の建築解体材、製材所の再・未利用木材を再資源化した「インシュレーションボード」と株式会社ワークスタジオの廃棄衣類繊維を原料とした繊維リサイクルボード「PANECO[®]」を組み合わせ、再生可能なボードを制作。素材を実際の空間で使用・訴求することでボードの実用性を検証するとともに、実用化に向けた課題や可能性を整理すべく、本実証実験を開始する運びとなりました。

実証実験終了後は、得られた知見を基に改良を加え、羽田空港をはじめとした空港関連施設や商業施設などへの幅広い展開を目指します。

この取り組みを通じて、資源循環型の空間デザインがもたらす可能性を追求し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

リリースに関するお問い合わせ先：

株式会社 丹青社

広報室 担当：石綿、寺戸

Tel：03-6455-8115 Mail：pr-staff@tanseisha.co.jp

お問合せフォーム：<https://www.tanseisha.co.jp/contact/pr>

■ 丹青社について

「こころを動かす空間づくりのプロフェッショナル」として、店舗などの商業空間、博物館などの文化空間、展示会などのイベント空間等、人が行き交うさまざまな社会交流空間づくりの課題解決をおこなっています。調査・企画から、デザイン・設計、制作・施工、デジタル技術を活かした空間演出や運営まで、空間づくりのプロセスを一貫してサポートしています。

社名：株式会社丹青社

所在地：東京都港区港南 1-2-70 品川シーズンテラス 19F 〒108-8220（本社）

創業：1946 年 10 月

資本金：40 億 2,675 万 657 円（2025 年 1 月 31 日現在）

上場：東京証券取引所プライム市場（証券コード：9743/業種：サービス業）

URL：<https://www.tanseisha.co.jp>

※ニュースリリースに掲載された内容は発表日現在のものです。

その後予告なしに変更されることがありますので、あらかじめご了承ください。